

# 女性の健康づくり支援特別委員会

## 目 次

### 女性の健康づくり支援特別委員会報告書

- I. は じ め に
- II. 調 査 の 目 的
- III. 対 象 と 方 法
- IV. 調 査 結 果
- V. まとめおよび平成22年度に向けて
- VI. 調 査 結 果 の 報 告

# 女性の健康づくり支援特別委員会

(平成 21 年度)

## 女性の健康づくり支援特別委員会報告書

広島県地域保健対策協議会 女性の健康づくり支援特別委員会

委員長 田中 純子

### I. はじめに

高齢化が加速しているわが国において、親の介護、配偶者の介護など、急速に進んでいる女性の社会進出とともに、女性の果たす役割が大きくなってきている。女性が生涯を通じ、健康で充実した日々を過ごすことが、家庭や社会にとっても有用であると考えられ、女性特有の健康課題に着目した対応が必要となってきている。

主体的に自らの健康に目を向け、思春期から中高年までの年代を通じて、必要に応じた疾病予防や健康増進に関する実践が可能となるような支援施策が求められる。

本委員会では、女性が主体的に自らの健康に目を向け、対処することを支援するツールの一つとして、「広島県版女性の健康ガイド」の制作を目指している。今年度は、「広島県版女性の健康ガイド」制作を視野に入れながら、女性の健康づくりに係る課題を把握するためのアンケート調査を実施することとした。

### II. 調査の目的

広島県内で生活している女性の生活習慣の現状、さらに女性の健康づくりや疾病予防に関する意識などを把握し、「女性の健康づくりに対する支援」を推進していく取り組みを検討するための基礎的なデータをを得ることを目的とした。

### III. 対象と方法

#### 1. 調査 1

広島県内の協力を得られた 21 市町において、調査時点（平成 22 年 1 月 1 日）16 歳から 39 歳の女性を対象に無作為抽出を行い、1,210 人を調査対象とした。同様に 40 歳から 59 歳の女性を対象に無作為抽出を行い、1,210 人を調査対象とした。最終的に合

計 2,420 人を調査対象とした。

調査方法は、無記名自記式によるアンケート調査を郵送し、同封の返信用封筒で回収した。調査票の回答をもって調査の同意とみなした。

#### 2. 調査 2

財団法人広島県環境保健協会などにおいて平成 21 年 3 月以降に人間ドック受診した全世代の女性から、無作為に抽出した 250 人を対象とした。

調査方法は、財団法人広島県環境保健協会の協力を得て、無記名自記式によるアンケート調査を郵送し、同封の返信用封筒で回収した。調査票の回答をもって調査の同意とみなした。

#### 3. 調査期間

平成 22 年 1 月から 2 月

#### 4. 回収率、解析対象数

調査対象者 2,670 人のうち、回収・有効回答数は 1,161 人（回収率：43.5%）であり、解析対象数とした。

#### 5. 調査項目

調査票は下記の項目（34 設問 40 項目）からなる（調査票：別添資料）。

##### 1) 「基本情報」について、

6 設問 10 項目（性別、居住地、職業、年齢、身長・体重・臍周囲径など）

##### 2) 「生活習慣などの状況」について、

14 設問 14 項目（食事、運動、睡眠など）

##### 3) 「健康診断などの状況」について、

6 設問 6 項目

##### 4) 「健康情報などの状況」について、

4 設問 6 項目

##### 5) 「健康増進事業など」について、

1 設問 1 項目

##### 6) 「女性特有の病気に対する知識と予防意識」について、

3 設問 3 項目

#### IV. 調査結果

調査結果については、「広島県女性の健康づくり支援ニーズ調査報告書」（別冊）において詳細に掲載している。本報告書においては、調査結果の分析から把握された、本県の女性の健康づくり支援に向けた課題・特性となる事項の主なものを掲げる。

##### 1) 「基礎情報」について

###### (1) 対象者の居住場所と職業

居住地をみると、広島市が最も多く36.3%、次いで福山市が14.6%、呉市7.8%、東広島市6.3%であり、21市町に分布していた（図1左）。

職業をみると、主婦・家事従事が31.6%、勤務者30.7%、パート・アルバイトが23.3%であった（図1右）。

###### (2) 対象者の年齢

解析対象者1,161人の年齢分布を見ると、50～59歳が33.3%を占め最も多く、次いで40～49歳が27.9%、30～39歳が23.0%、20～29歳が12.0%、19歳以下が3.3%であった（図2）。

###### (3) 現在の自分の体重について

「今より減らしたい」と考えている割合は、全体の58.9%であり、「このままでよい」と考えている

割合は、22.3%、「今より増やしたい」と考えている割合は、2.1%であった（図3）。

年齢階級別にみると、いずれの年齢においても「今より減らしたい」と考えている割合が最も多く、特に30歳代では67.0%を占めていた。

##### (4) 肥満度と現在の体重について

対象者の肥満度（BMI: Body Mass Index）別に現在の自分の体重についての回答をみると、BMIが25以上の肥満の群では、いずれの年齢層も「今より減らしたい」と考えている割合が全体の80%以上を占めていた（図4）。

また、BMI 18.5以上25未満の標準体重を示す群においても、「今より減らしたい」と考えている割合が、20歳以上の年齢層ではいずれも55%以上を占めた。

一方、BMIが18.5未満のやせ群では、「このままでよい」と考えている割合が、20歳以上のいずれの年齢層でも40%以上の大半を占めたが、10歳代の年齢層（N=6）では、「今より減らしたい」と考えている割合が33.3%であり、「このままでよい」と考えている割合より多かった。

また、BMIが18.5未満のやせ群の30歳代でも、「今より減らしたい」と考えている割合が33.3%であった。

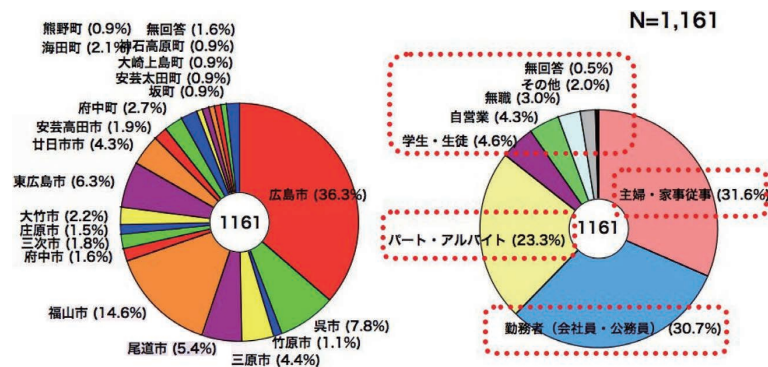


図1 対象者の居住場所と職業

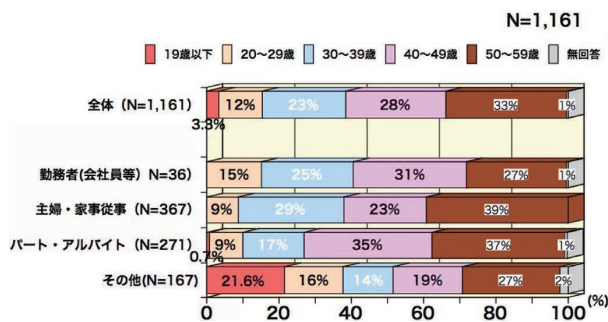


図2 対象者の年齢

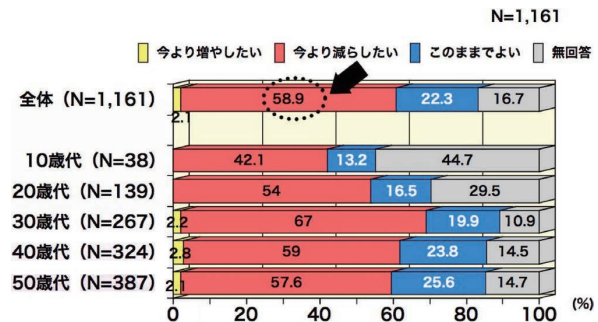


図3 自分の体重について

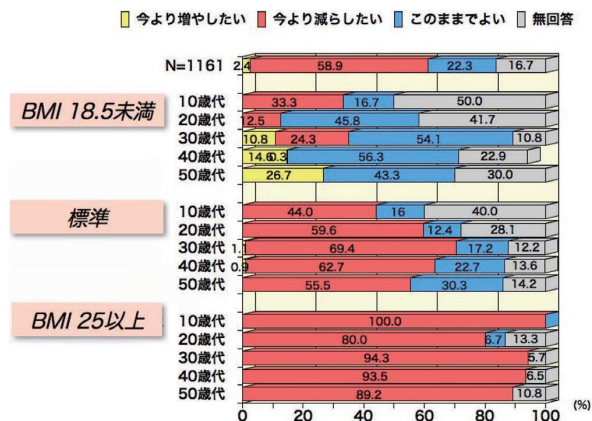


図4 肥満度と現在の体重について

(5) かかりつけ医の有無について

かかりつけ医を決めていないと回答したのは、1,161人中310人(26.7%)であり、無回答を除いた全体の65%余りは、かかりつけ医を決めていた(図5)。

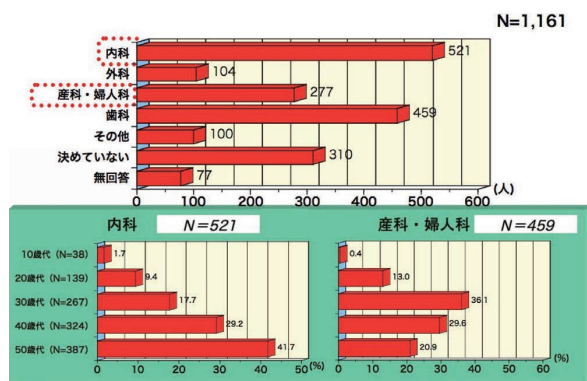


図5 かかりつけ医の有無(複数回答)

複数回答であるが、かかりつけ医の内訳をみると、内科医が最も多く、次いで歯科医、産科・婦人科医の順であった。

2) 「生活習慣の状況」について

(1) 朝食の回数について

朝食の回数については、「毎日」と回答した割合が最も多く80.6%、次いで「4~5回」が6.0%、「2~3回」が5.6%であった(図6)。

年齢階級別にみると、20歳代では、「毎日」と回答した割合が58.7%と他の年齢階級の回答割合と比べて低くなっていた。

また、職業別にみると、「毎日」と回答した割合は主婦・家事従事において87.3%と他の職業に比べて高い値を示した。

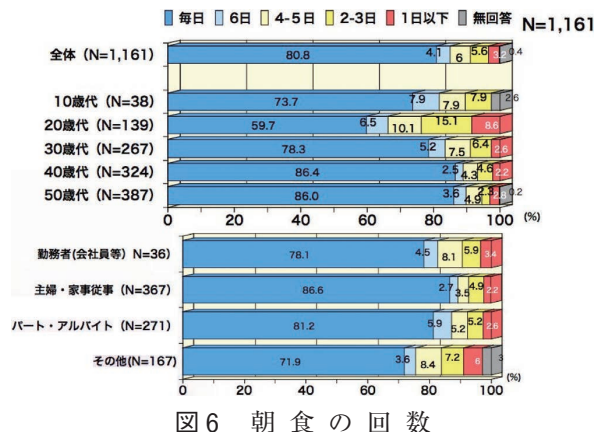


図6 朝食の回数

(2) 1年間の運動やスポーツについて

1年間の運動やスポーツについては、「しなかった」と回答した割合が53.1%と最も多く、次いで「月に1~3日」が18.3%、「週に1~2日」が17.0%であった(図7)。

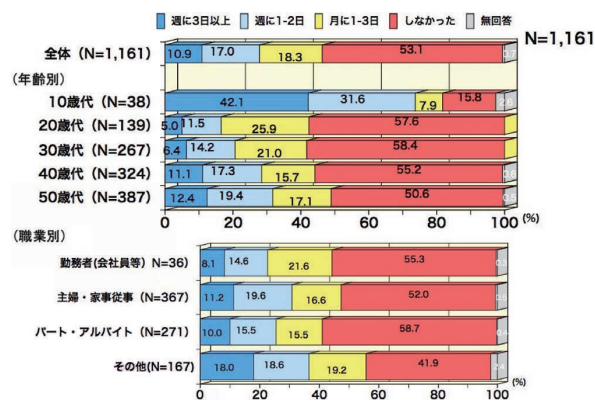


図7 1年間の運動やスポーツ

年齢階級別にみると、20歳代より高い年齢階級では、いずれも、「しなかった」と回答した割合が50%以上を占めたが、一方で、年齢が高くなるに従い、運動・スポーツをする頻度が高くなっていった。

10歳代では、「週に3日以上」と回答した割合が42.1%とどの年齢層より高い値を示した。

(3) 過去1ヵ月間の平均睡眠時間について

1ヵ月間の平均睡眠時間については、「6時間以上8時間未満」と回答した割合が53.3%と最も多く、次いで「4時間以上6時間未満」が40.4%、「8時間以上」が4.1%であった(図8)。

年齢階級別にみると、10歳代では、「4時間以上6時間未満」と回答した割合が47.4%と他の年齢階級の回答割合と比べて高くなっていった。

また、職業別にみると、勤務者では「4時間以上6時間未満」と回答した割合が46.3%と他の職業に

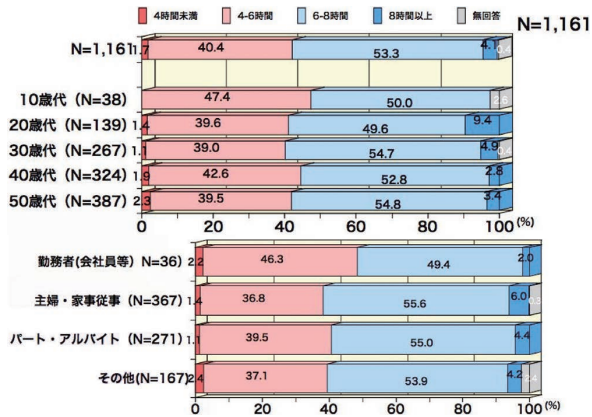


図8 過去1ヵ月間の平均睡眠時間

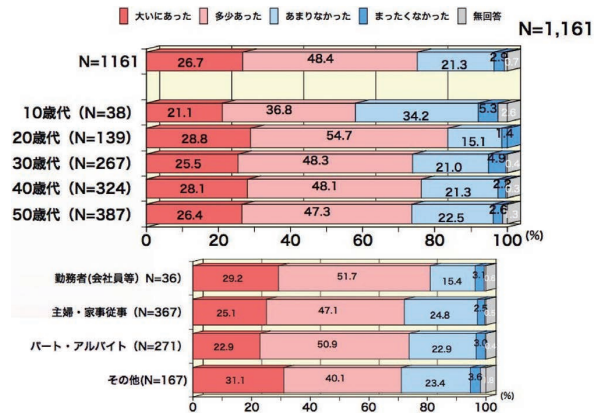


図9 過去1ヵ月間の悩みやストレスの有無

比べて高い値を示した。

(4) 過去1ヵ月間の悩みやストレスの有無について

ここ1ヵ月間の悩みやストレスについては、「多少あった」と回答した割合が48.4%と最も多く、次いで「大いにあった」が26.7%であり、両者をあわせると7割以上が「ストレスがあった」と回答している(図9)。

年齢階級別にみると、「大いにあった」あるいは「多少あった」と回答した割合をみると、20歳代で8割以上を示し他の年齢階級と比べて高い値を示した。

また、職業別にみると、勤務者では「大いにあ

た」あるいは「多少あった」と回答した割合が8割以上を占め、他の職業に比べて高い値を示した。

(5) 悩みやストレスの理由について

悩みやストレスの理由は複数回答であるが、「自身の健康」と回答した件数が284件と最も多く、次いで「人間関係の変化」は251件であり、「親子(義理の関係含む)」が、「経済」が続いて多かった(図10)。

職業別にみると、勤務者では「人間関係の変化」「仕事の増加」と回答した件数が多く、「親子(義理の関係含む)」の回答が少なかった。主婦・家事従事では「子育て」「自身の健康」の回答が多かった。

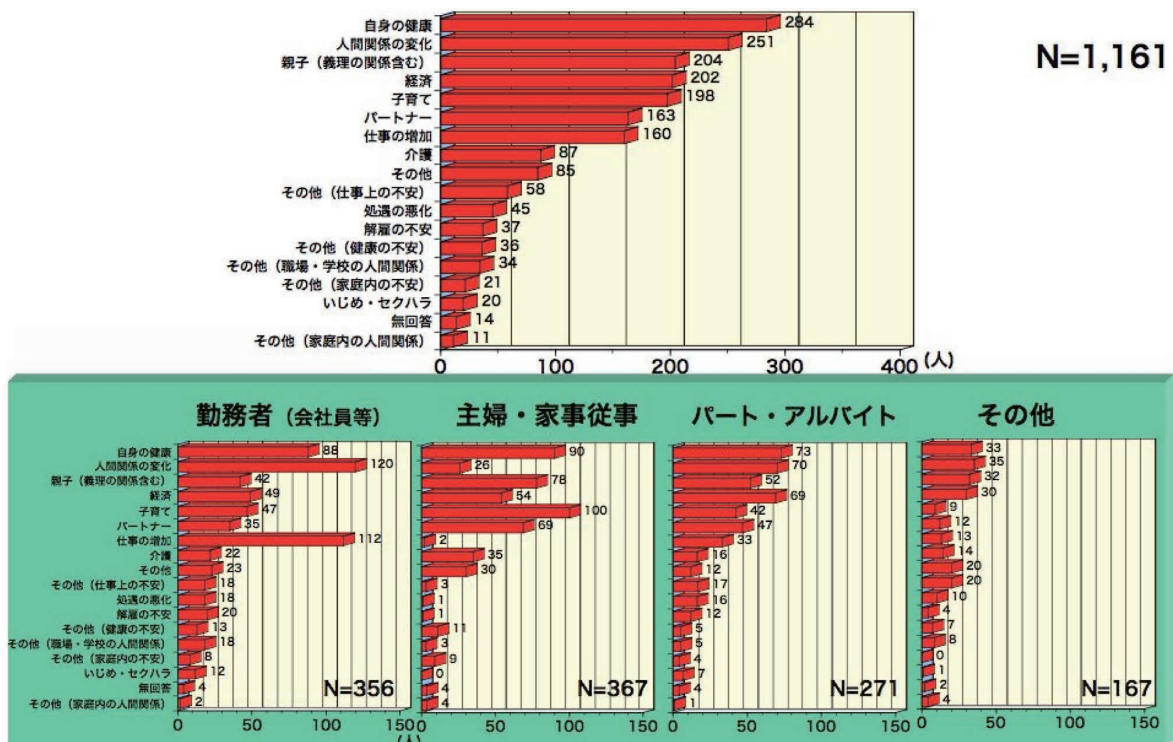


図10 悩みやストレスの理由(複数回答)

(6) 悩みやストレスの解消の方法について

悩みやストレスの解消の方法についてみると、「睡眠・休養」と回答した件数が512件と最も多く、次いで「信頼できる相手に相談」が472件であり、「買い物」、「雑談」がともに401件、400件であった(図11)。

職業別にみると、勤務者では「睡眠・休養」の回答が多く、主婦・家事従事では「信頼できる相手に

相談」と回答した件数が多かった。

(7) 喫煙の有無について

喫煙の有無についてみると、複数回答であるが、「吸ったことがない」と792件が回答し、対象者約7割に相当した。「吸っている」と回答したのは110件で、全体の1割弱に相当した(図12)。職業別に喫煙率を比較しても差は認められなかった。

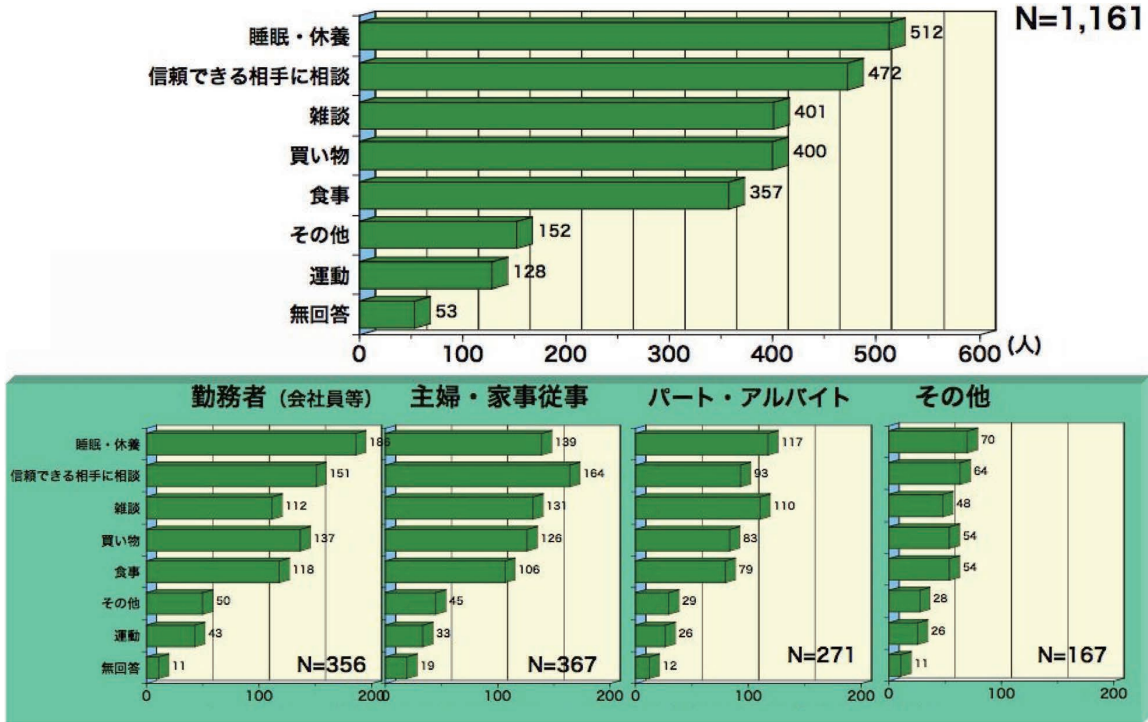


図11 悩みやストレスの解消方法 (複数回答)

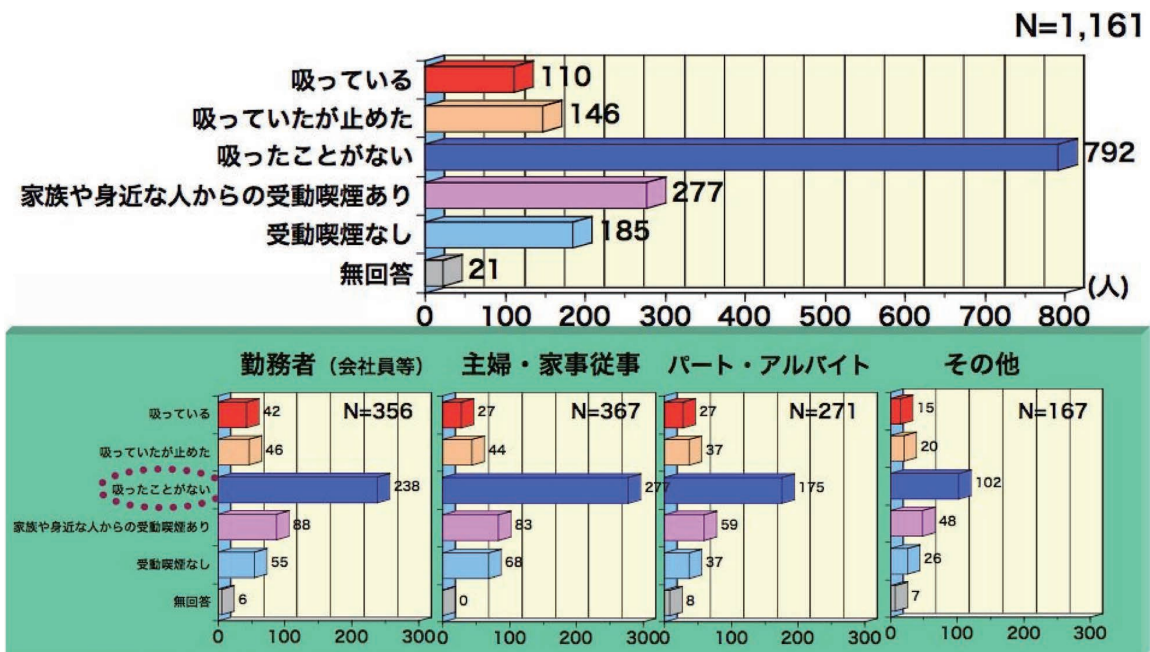


図12 喫煙の有無について (複数回答)

(8) 飲酒の有無について

飲酒の有無についてみると、「飲まない」と回答した割合は41.0%と最も多く、「ほぼ毎日」と回答したのは13.1%であった(図13)。

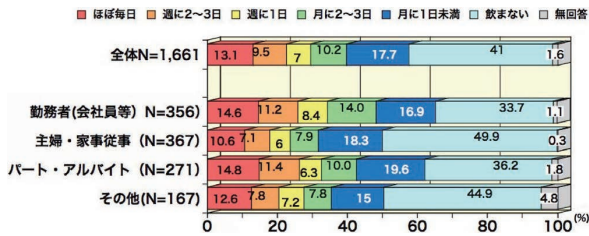


図13 飲酒の有無について

職業別に見ると、「ほぼ毎日」と回答した割合では、職種別での差は認められなかったが、「飲まない」と回答した割合は、勤務者と主婦・家事従事者の間では、主婦・家事従事者の方が有意に高い率を示した。

3) 「健康診断などの状況」について

(1) 過去1年間の健康診断や人間ドックの受診状況について

過去1年間の健康診断や人間ドックの受診については、「受けた」と回答した割合が最も多く58.0%、「受けていない」と回答した割合は39.7%であった(図14)。

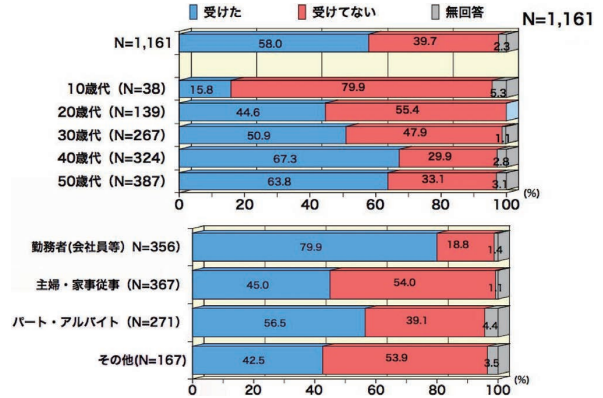


図14 過去1年間の健康診断や人間ドックの受診状況

年齢階級別にみると、年齢が高くなるにしたがって、「受けた」と回答した割合が高くなる傾向がある。

また、職業別にみると、「受けた」と回答した割合が勤務者では79.9%と高い値を示すのに対して、主婦・家事従事では5割未満と低い値を示した。

(2) 過去1年間のがん検診の受診状況について

過去1年間のがん検診の受診については、「受けた」と回答した割合は、「子宮がん」で43.8%と最も多く、次いで「乳がん」が37.3%、「胃がん」が21.4%、「肺がん」16.3%、「大腸がん」16.0%であった(図15)。

また、職業別にみると、勤務者では「子宮がん」「乳がん」検診を受けた割合が高かった。

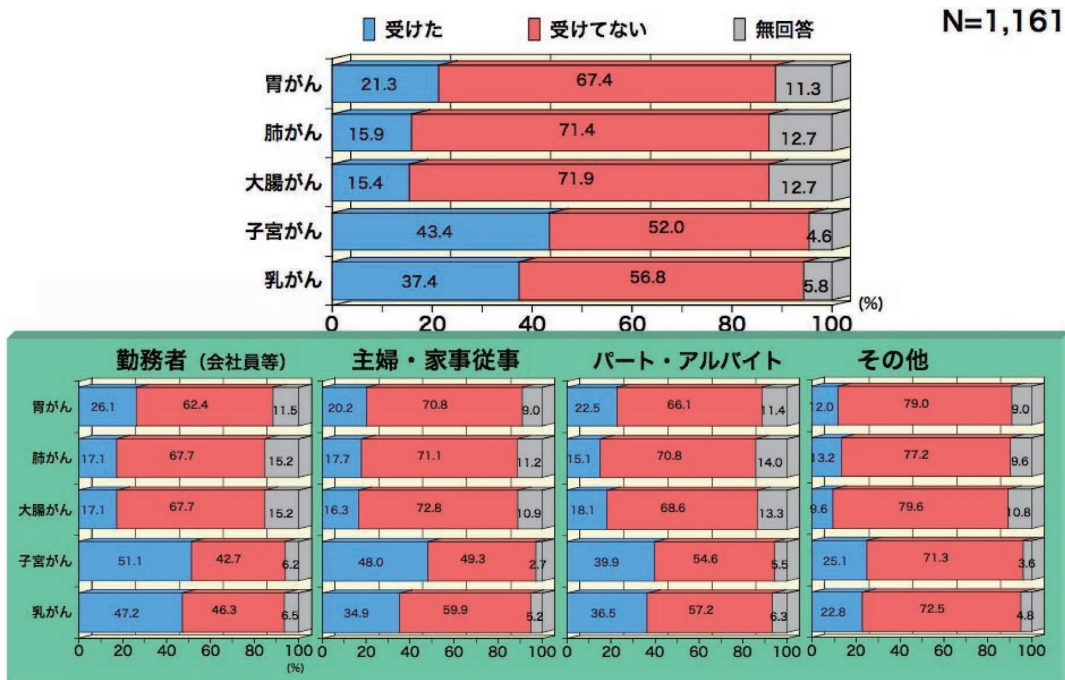


図15 過去1年間のがん検診の受診状況

4) 「女性特有の病気に対する知識と予防意識」について

(1) 「子宮頸がんは最近20歳代から30歳代の女性で増えていること」の認知度について

「子宮頸がんは最近20歳代から30歳代の女性で増えていること」については、「知っている」と回答した割合が76.6%と高く、「知らない」と回答した割合は22.4%であった(図16)。

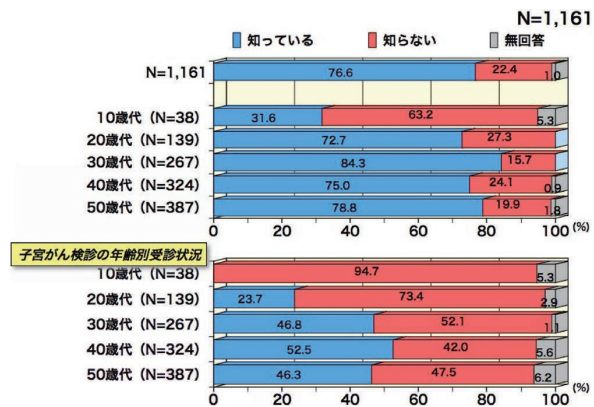


図16 「子宮頸がんは、最近20代から30代の女性で増えていること」の認知度

年齢階級別にみると、10歳代では「知っている」と回答した割合が31.6%と低い値を示した。

認知度は20歳以上の年齢層で高い割合を示したが、子宮がん検診の年齢別受診状況を見ると、20歳代では、23.7%と低い受診率を示していた(図16)。

V. まとめおよび平成22年度に向けて

県内の女性の生活習慣、健康づくりや疾病予防に関する意識の状況について、支援ニーズ調査を実施した結果、本県の女性の健康づくり支援に向けた課題・特性が把握されたところである。生活習慣や健康や疾病予防に対する意識は年齢別、職業別に異なることから、それぞれの特性にあわせて、女性が自らの健康に目を向けられるような働きかけを考えていくことが必要である。

これらの結果を市町や健診機関など、各関係団体などが共有し、女性の健康づくり支援の取組に反映させることで、効果的な支援が行われるよう期待するものである。

当委員会では、平成22年度この調査結果のさらなる詳細な分析を行い、県内の女性に提供することが必要な情報を盛り込んだ広島県版「女性の健康ガイド」の作成について協議することとする。

VI. 調査結果の報告

日本産科婦人科学会広島地方部会と広島県の共催による、「女性の健康週間市民公開講座」において、広島県女性の健康づくり支援ニーズ調査の実施結果の概要を報告した(平成22年3月7日、リーガロイヤルホテル広島)。

- 広島県地域保健対策協議会 女性の健康づくり支援特別委員会
- 委員長 田中 純子 広島大学大学院疫学・疾病制御学
- 委員 青木陽一郎 (財)広島県環境保健協会
- 井之川廣江 広島県医師会
- 岩沖 靖久 JA 吉田総合病院
- 奥野 博文 広島市健康福祉局保健部保健医療課
- 小島 隆 広島県歯科医師会
- 小林 昭博 広島県健康福祉局保健医療部健康対策課
- 佐伯真由美 県立総合精神保健福祉センター
- 瀬戸真理子 瀬戸産婦人科医院
- 田中 彰彦 呉市保健所健康増進課
- 中川 絵理 (財)広島県女性会議
- 橋目美枝子 全国健康保険協会広島支部
- 早瀬 良二 福山医療センター